



【第3弾】 川と人、社会、文化の関わり講座

(主催：NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 (RAC) ・
仁淀川清流保全推進協議会・物部川清流保全推進協議会)

令和8年1月29日に、【第3弾】川と人、社会、文化の関わり講座を開催しました。(第1弾(R7/7/23、7/24開催)は令和7年8月7日の投稿で、第2弾(R7/11/5開催)は令和7年11月12日の投稿で紹介しています。)

座学では、大野集落がフィリピン海プレートにより、約200万年かけて約1500メートル隆起した険しい地形に位置していることや、川や谷の水を利用して1200年前から棚田で稲作が行われてきたこと、仁淀川流域の神社には「川から流れてきた」という言い伝えがあることなどが説明されました。

実習の集落歩きでは、共力橋、河嶋山神社、金刀比羅宮、栄保橋などを見学しました。

大野集落には、山口県周防大島から来た「長州大工」が手掛けた多くの建築物が現存しています。

約200年前に現在の場所へ移築された河嶋山神社には、長州大工の彫刻が多数施されており、参加者からは「すごい!」といった感想が聞かれました。

移動中には、井上先生から植物に関する豆知識や、集落で暮らす人々の工夫など、興味深い話が多数紹介されました。

また、かつて物資の運搬に使われていた「かけとばし(滑車)」の一部も見学することができました。

さらに、仁淀川町内で古くから伝わるおやつを、参加者一人ずつ炭火で軽く焼いて試食しました。参加者からは「香ばしくておいしい」と好評の声が聞かれました。

今回の講座を通じて、仁淀川の美しい自然や歴史、文化、地域の暮らしについて身近に感じる貴重な機会となりました。

今後もRAC川の安全教室を定期的で開催してまいります。

最新の講座募集案内は、高知県のホームページや自然共生課Facebookで随時お知らせいたします。

川の魅力を感じながら、一緒に新しい発見をたのしみましょう。
皆さまのご参加を心よりお待ちしております!